

数は20年で倍増でも…

# 女性医師の活躍 人材確保に必須

県内の女性医師でつくる「愛知女性医師の会」が、今年で設立60周年を迎えた。過去約20年で県内の女性医師の数は2倍に増加し、今では4人に1人が女性だ。小出詠子会長(65)=東海市=は、「医療界に男性優位の風潮が残っているとして『女性の活躍を進めることが医師不足の解決になる』と話す。

(平井良信)



女性医師の働き方などについて話す愛知女性医師の会の小出会長=東海市で



00年の県内の医師数は男性が1万565人、女性が2072人で、女性比率は16・3%。22年は男性が1万3961人、女性が4555人で、女性比率は25・0%に高まった。29歳以下

医会県支部として設立。県医師会の分科会として女性医師が働きやすい環境の整備や会員同士の情報交換に取り組んできた。会員は現在107人で、2021年には若手女性医師向けに学術奨励賞を設け、研究を支援している。

一方、女性は出産、子育てを機に仕事を離れるを得ない期間があり、就業率は35歳前後で76%に下がる現状がある。小出会長は「院内保育所や短勤務制度が整い、以前より復職する女性は増えているが、常勤に戻る人は少ない」と指摘。「休業でキャリア形成に不利益な扱いを受けることもあり、男性が多くを占める管理層に前時代的な感覚が残っている」と話す。

今年4月には、勤務医の

残業時間を年960時間に制限する「医師の働き方改革」が始まり、医師一人あたりの働く時間が短くなる代わりに人数の確保が必要になっている。小出会長は「医師数の確保には女性医師の活躍が不可欠。男女ともに働きやすい医療現場にしなければならない」と話す。

## 愛知女性医師の会60周年 小出会長「働きやすい現場願う

で見ると女性比率は35・

0%となり、小出会長は「医学部への女性の入学者增加が背景にある」と話す。